



TITLE:

表紙、巻首図版、序、例言、目次
、図版目次、挿図目次、表目次、
中扉、奥付、正誤表

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、巻首図版、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、中扉、奥付、正誤表. 京都大学構内遺跡調査研究年報 1992, 1988

ISSUE DATE:

1992-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226888>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

1988年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

卷首図版



京都大学本部構内 AW27 区 SK3 出土黄釉陶器盤 口径 34 cm

序

埋蔵文化財研究センターが発足してすでに15年が経過し、多数の学内の校舎新営にともなう遺跡の調査をおこなってきた。この間に多くの遺構と膨大な量の遺物を発掘したが、当センターではそれらの調査の概要を年度ごとにまとめて、すでに12冊の年次報告書を、そして重要な調査については、さらに詳細な分析をおこなった研究成果の報告書を過去に4冊刊行した。従来の調査によって、吉田キャンパス内には縄文時代から近世にいたる各時代の遺跡が、また和歌山県白浜町瀬戸、京都府下の美月・中海道・本山など各地に点在する大学敷地内にも、同様の遺跡が良好に残されていることが明らかになっている。

この年報は、1988年度におこなった構内遺跡の調査成果を第Ⅰ部とし、またこれに関連する遺物の研究成果を第Ⅱ部としたものである。第Ⅰ部の2件の調査では、京都大学構内に残る中世および近世の遺構・遺物に関して、従来の成果に加えて、この一帯の歴史的環境を復原する上で新たな資料を多数得ることができた。第2章の本部構内東北部の調査では出土した炭火材について木材研究所の、また貝類については理学部地質学教室の協力を得て同定をおこない、その結果を取めた。御高覧いただき御批判をお願いしたい。

終わりに、ここに報告した調査でも、学内学外の多くの関係者に御指導と御協力をいただいた。とりわけ、施設部、工学部、医学部芝蘭会の関係者各位に対して、お礼申し上げる次第である。

1992年3月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

小 野 山 節

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で1988年4月1日から1989年3月31日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺 50 m の方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系 ($x = -108,000$ $y = -20,000$) が ($X = 2,000$ $Y = 2,000$) となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SK のように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学本部構内 AW27 区の発掘調査
Ⅱ：芝蘭会館国際交流会館建設予定地 AR19 区の発掘調査
(例Ⅰ1：京都大学本部構内 AW27 区出土遺物 1 番)
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺 1/4、遺物の写真は約 1/2 に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 第Ⅰ部の参考文献は、本文中に、〔著者名 発表年〕の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。第Ⅱ部については、章末の注に一括して記載した。
- 8 遺構・遺物の実測と製図は、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、千葉豊、森下章司、石田由利子、上野京子、合田敦子、西川恵美子がおこなった。遺物の撮影は森下章司が担当した。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに記した。
- 10 編集は五十川伸矢が担当し、清水芳裕、浜崎一志、千葉豊、森下章司、石田由利子、合田敦子、中田敬子、西川恵美子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 1988年度

目 次

第Ⅰ部 1988年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 1988年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
3 北部構内 BD28 区の試掘調査	3
第2章 京都大学本部構内 AW27 区の発掘調査	5
1 調査の経過	5
2 層 位	5
3 縄文・弥生時代の遺物	7
4 中世の遺跡	10
5 近世の遺跡	22
6 出土炭化材の樹種	28
7 小 結	30
第3章 芝蘭会国際交流会館建設予定地 AR19 区の発掘調査	37
1 調査の経過	37
2 層 位	37
3 遺 構	38
4 遺 物	40
5 小 結	45
参 考 文 献	47
京都大学構内遺跡調査要項	50

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 IX

土器の器種と胎土	59
1 はじめに	59
2 素地選択の検証	61
3 算 定 法	62
4 縄文土器・弥生土器・土師器の胎土	64
5 胎土の砂含有率	66
6 器種別含有率の分布	73

図 版	巻末
-----	----

図 版 目 次

巻首図版 京都大学本部構内 AW27 区 SK3 出土黄釉陶器盤

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 調査区全景（南から）
 - 2 中世の遺構（東から）
 - 3 近世の遺構（東から）
- 3 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 土坑 SK2（西から）
 - 2 土坑 SK7（東から）
 - 3 土坑 SK1（西から）
 - 4 集石 SX1（南から）
 - 5 土坑 SK5（西から）
 - 6 土坑 SK3（西から）
- 4 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 道路 SF1-Ⅱ（東から）
 - 2 道路 SF1-V（東から）
- 5 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 道路 SF1 の断面（東から）
 - 2 道路 SF1-V 轍（東から）
- 6 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 縄文後期の土器
 - 2 縄文中期・後期・晩期の土器，弥生前期・中期の土器
- 7 京都大学本部構内 AW27 区
SK3 出土遺物
- 8 京都大学本部構内 AW27 区
金銅製飾金具，鋏・鋤先，掛金，釘，鏝
- 9 京都大学本部構内 AW27 区
 - 1 SF1-V 出土遺物
 - 2 SF1-V・SF1-Ⅲ・SF1-Ⅱ・SD1 出土遺物
- 10 京都大学本部構内 AW27 区
SK3 出土炭化材(1)
- 11 京都大学本部構内 AW27 区
SK3 出土炭化材(2)

- 12 芝蘭会国際交流会館建設予定地 AR19 区
- 1 瓦溜 SX2 (東から) 2 土坑 SK5・SK8・SK9 (北から)
- 3 石組 SX1 (西から)
- 13 芝蘭会国際交流会館建設予定地 AR19 区
- 1 近世の遺構 (東から) 2 近世白川道 (西から)
- 3 近世白川道の轍 (西から)
- 14 芝蘭会国際交流会館建設予定地 AR19 区
- SK11・SK15・SK2 出土遺物
- 15 芝蘭会国際交流会館建設予定地 AR19 区
- 軒丸瓦, 軒平瓦

挿 図 目 次

1988年度構内遺跡調査の概要	図11 SK3 出土遺物(1)……………16
図1 試掘調査の位置と 周辺の調査区…………… 3	図12 SK3 出土遺物(2)……………17
図2 TP2 西壁・TP3 東壁の層位…………… 3	図13 SK3 出土遺物(3)……………18
図3 TP1・TP2・TP3・54 地点・ 109地点の層位模式図…………… 4	図14 軒瓦, 平瓦, 丸瓦……………19
本部構内 AW27 区の発掘調査	図15 鋏・鋤先……………20
図4 調査区中央南北畔の層位…………… 6	図16 掛金, 釘, 鏝……………20
図5 縄文後期の土器…………… 7	図17 金銅製飾金具……………21
図6 縄文中期・後期・晩期の土器, 弥生前期・中期の土器…………… 8	図18 道路 SF1 の断面……………22
図7 尖頭器, 石斧…………… 9	図19 道路 SF1 の変遷……………23
図8 中世の遺構……………10	図20 SF1-V・Ⅲ・Ⅱ・Ⅰ・ SD1 出土遺物……………26
図9 土坑 SK7・SK1, 集石遺構 SX1……………11	図21 SE5・暗灰色粘質土 下半・上半出土遺物……………27
図10 SK1・SK7・ SK2・SK5 出土遺物……………13	図22 童子山 1 号窯跡出土 黄釉陶器盤の鉄絵……………31
	図23 日本各地出土の黄釉陶器盤……………33
	図24 『改正京町御繪圖細見大成』……………35

芝蘭会館 AR19 区の発掘調査

図25 調査区北壁の層位……………37

図26 中世の遺構・近世の遺構……………39

図27 SK11・SK15・
SK2 出土遺物……………41

図28 SK2 出土土師器……………42

図29 軒丸瓦・軒平瓦……………44

土器の器種と胎土

図30 調整による器面の差と
胎土組成……………60

図31 砂含有率計算法……………63

図32 縄文土器分析試料(1)……………65

図33 縄文土器分析試料(2)……………66

図34 縄文晩期終末～弥生前期
の土器分析試料(1)……………67

図35 縄文晩期終末～弥生前期
の土器分析試料(2)……………68

図36 縄文晩期終末～弥生前期
の土器分析試料(3)……………69

図37 縄文晩期終末～弥生前期
の土器分析試料(4)……………70

図38 土師器分析試料(1)……………71

図39 土師器分析試料(2)……………72

図40 土師器分析試料(3)……………73

図41 土師器の胎土……………74

図42 器種別砂含有率の分布……………75

表 目 次

表1 SK3 出土炭化材の樹種……………28

表2 京都大学構内遺跡の
おもな調査……………54

表3 縄文土器……………64

表4 縄文晩期終末～弥生前期の土器……………66

表5 土 師 器……………70

第Ⅰ部 1988年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 1988年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学本部構内AW27区の発掘調査

第3章 芝蘭会国際交流会館建設予定地AR19区の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 IX

土器の器種と胎土

清水 芳裕

1992年3月30日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
1988年度

編集 発行	京都大学埋蔵文化財研究センター 京都市左京区吉田本町
印刷 製本	山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内小川西入

正 誤 表

京都大学構内遺跡調査研究年報 1988年度

頁	行	誤	正
i	13	炭火材	炭化材
iii	9	1 調査の経過	1 調査の概要
v	23	1 SF1-V出土遺物	1 SF1-V・SF1-Ⅲ・SF1-Ⅱ出土遺物
1	14	(図版1-194)	(表2)
7	9	(I 1・I 9～I 17)	(I 1・I 9～I 19)
9	2	I 22～I 3	I 22・I 23
12	1	図11～17	図10～17
31	5	Ⅱ 99	Ⅰ 99
	11	2号経塚出土品	2号経塚出土品(図23-2)
	15	博多区祇園	博多区上祇園
35	3	I 38	I 169
38	13	Y=1960	Y=1970
42	8	(Ⅱ 24・Ⅱ 25)	(Ⅱ 33・Ⅱ 34)
		(Ⅱ 26～Ⅱ 29)	(Ⅱ 27～Ⅱ 32)
45	1	6 小 結	5 小 結
47	14	AJ18・AP19区	AJ18・AJ19区
74	2	大形壺	大型壺
図版 8		I 126	I 128
図版 9		1 SF1-V出土遺物(I 155色絵蓋, I 156染付蓋)	SF1-Ⅲ出土遺物(I 155色絵蓋, I 156染付蓋)
		2 SF2-V	SF1-V
図版14		SK2出土遺物(Ⅱ 17)	SK15出土遺物(Ⅱ 17)
図版15	写真 番号	Ⅱ 38(右上) Ⅱ 41 Ⅱ 49 軒丸瓦(Ⅱ 38SD11) 軒平瓦(Ⅱ 49茶褐色土)	Ⅱ 39 Ⅱ 42 Ⅱ 44 (Ⅱ 38攪乱) (Ⅱ 44SK6)